

平成 26 年 3 月 31 日

区民生活部

部長 立川 資久 殿

本年度の評議会は、平成 24 年度の評価実績を基盤にして、千代田区立図書館の蔵書形成に関して継続的な評価を行いました。千代田区の特性を考えた場合、どのような蔵書形成が望まれるかという課題は、根本彰前評議会議長が、「平成 24 年度千代田区図書館評議会－評議結果報告－」の序文でも記していることですが、結論を得ることは容易では決してありません。昼間人口と夜間人口の格差、区内の地域における違いは、蔵書形成の在り方に大きな影響を及ぼします。これに加えて、本評議会の使命である、指定管理者による図書館運営に対する評価は、日比谷図書文化館と千代田図書館等の運営事業者が異なることから、極めて複雑となっています。

こうした現状認識のもと、蔵書形成に関する評価の難しさを予測しながらも、評議会は評価部会に対して、二つの課題をお願いしました。一つは、日比谷図書文化館の蔵書構築の現状を明らかにすることです。評議会でも、平成 24 年度に、日比谷図書文化館の蔵書に関する検討を行いました。同館が開館して日が浅かったことから、踏み込んだ内容にまでは至りませんでした。そこで、本年度改めて評価の対象とすることとしました。

もう一つは、千代田区立図書館全体を対象とした蔵書構築の管理体制ならびに蔵書構成の状況を明らかにすることです。これについては、評議会においても、活発な意見が出されました。指定管理者が複数あることから、それぞれの特性に応じた管理体制を認めるか、区としてある程度統一した管理体制にすることを是とすべきか、これは、そう簡単に結論を出せることではありません。最終的に評議会では、二つの事業者の相違の是非を評価の主眼とするのではなく、二つの指定管理者間の蔵書形成に係る管理体制の状況を評価の中核に据えるという共通理解を、評価部会へ提示しました。

評価部会から提示され、評議会における議論を経て確定したものが、本書 5 の評価報告書です。評価部会においては、評議会から依頼した二つの課題に対して、煩瑣な作業であることを厭わず、的確な分析をしていただきました。とりわけ、蔵書形成に携わる職員への面接と蔵書データに対する解析を行うことによって、蔵書形成のプロセスと形成された蔵書の質を確認する材料が得られ、説得力のある結論が導かれたと判断されます。

千代田区において、こうした成果を反映した図書館政策が実践され、いっそう効果的な図書館運営が実現することを、心から期待いたします。

最後に、本年度から評価部会長として、評価作業及び評価報告書の作成にご尽力いただいた青柳英治さん、ならびに、評価部会の委員各位に、心から御礼申し上げます。

千代田区図書館評議会
会長 小田 光宏